

令和 4 年度 園評価書

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている, C:あまりできていない, D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
心豊かなたくましい子	重点目標「自分らしさを発揮する」	整備後、すぐに遊びだせるようにし、自分なりに試したり、工夫したりしてじっくり遊べるようにする	それぞれの学年で、こどもと一緒に環境を作ることで、自分なりに考えたりする姿が見られる。「もっとう」と遊びが翌日につながったり、可動遊具や自然物の使い方を、年上の子ども達の遊び方を見ながら、年下の子ども達が学び、いきいきと遊ぶ姿がある。さらに、子ども達が、車の遊具などを自分で出し入れできる置き場を考えている。	A	A	・ICT教育が進み、小学校では一人一台タブレットを持つようになり、弊害も出てきている。バーチャルの世界で、自分の手で触ることや実体験の大切さを感じている。是非、自然の中でたくさん体験をしてほしい。 ・クリスマスのメッセージカードでは、「園でそんなことができているんだ…」と親の知らない一面を先生方が見つけてくれていて、一人一人言葉のプレゼントをもらった。子ども自身も嬉しいが、親も嬉しく思った。	子ども自身が、自分で考えたり自分で決められる遊び環境を整えていく。つまづきに丁寧に開き、子どもがどんな思いを持って関わろうとしているのか読み取り、支えていく。本当の思いを出し合えるようにしていきたい。
		まずは保育者が子ども達の良さ (いいね) を拾い、自分の良さや友だちの良さに気付けるようにする	大人が子どもの「良さ (いいね)」を具体的に伝えることで、子どもたちの誉め言葉の関わりの中でも「ありがとう」や「いいね」の声が多く聞かれている。クリスマスには、サンタさんからのメッセージとして、一人一人の「良さ (いいね)」をメッセージカードで伝えるようにした。友だちと一緒に活動する楽しさや自分の目標 (やりたい気持ち) にまっすぐに取り組む姿につながっている。	A	A		自分の思いを大切にしてもらい、相手の思いにも気付けるように、みんながじっくりと働く関係を作っていきたい。
		園内だけでなく、園庭や畑、真山等も利用して子ども達の遊びを豊かにする	新たな場所で開催活動が出来ることになり、収穫体験だけでなく、絵を描いたり、虫を採ったりして畑での楽しみ方が増えている。また、異年齢で出掛けたり、遠足でお弁当を食べる場所として保護者と一緒に過ごしたり、畑を大いに活用できるようになっている。職員は、保育の中で恵まれた地域 (たんぼぼ山等) の環境をどう生かすかという意識が持てるようになってきている。	A	A		恵まれた自然環境を保育に生かし、畑やたんぼぼ山などで好奇心や探求心を育てていく。今年度、畑で絵本を見たり、絵を描いたりして第2園庭のように活用してきたが、引き続き栽培、収穫体験も含め、自然の中で子どもの遊びを豊かにしていきたい。

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	学年目標に向けて教育・保育を行う	学年目標を意識しながら、今の子どもたちに向き合い成長段階を把握して、どこが育っているのか、どこを育てていきたいと考えて保育している。	A	A	・こども園の子はいきいきとした表情がみられるが、特に、小学生は学年が上がるにつれ、自己肯定感が下がる。それは、成長でもあるが、学力の差がはっきりとわかりようになるためだと思われるが、他に家庭環境もある。	各学年の最終目標に向けて、いろいろな経験を通して自信をもてるような「自分づくり」が出来るようにしていく。
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の育ちや生活リズムを大切に、安定した気持ちで園生活が送れるようにする	支援の必要な子や配慮が必要な家庭などについて会議や日々の打ち合わせの中で、情報共有を行っている。家庭環境の変化 (母の出産や兄弟の誕生によるケアなど) に対しても、配慮している。また、一人一人が安定した気持ちで園生活が過ごせるように月齢による基準にとらわれず、出来ることや個性に応じて教育保育を行っている。	A	A		職員同士の情報共有をしっかりと行い、一人一人の子どもの様子や変化に気を付けていく。一人一人が安心して過ごせるよう心が通う心地よさを感じられるようにしていく。
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子ども達の興味・関心に合わせた素材や教材を考え、環境づくりをする	季節の自然物を活かした素材や見立ての工夫が出来るもの、子どもの「やってみよう」や「挑戦してみよう」とする気持ちを実現できるもの、自分で取りだせるもの (自分で片付けられる) などを意識した環境を用意していることで、遊びが豊かになっている。	A	A	・コロナの対応では家庭によって対応も様々で、最近ではコロナ、インフルエンザ、花粉症その他症状が似ている為、強く言えない。家庭ごとにがらや違っていいかと思うが、先生方もよくやってくださっていると思う。	この時期にしか経験出来ないことや実体験の大切さということをふまえて、環境を通して教育保育をしていきたい。そのための自然環境や素材など、子どもの興味関心に合わせたこと・物を用意していく。
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	様々な想定の実施し、避難の仕方を考えていく	いろいろな場面を想定し、恥を顧いまま逃げるのか、乳児を避難車で避難出来なかった場合どうするのかなど、対応を話し合っている。職員だけでなく、幼児組は一人一人が自分の命を自分で守る意識も持てるよう、伝えている。	B	A	・安全を意識する力を高めることが必要だと思う。	何のために訓練を行うのか、ねらいをもち日ごろから危機意識を持つようにしていきたい。いざという時は、チームで対応出来るように、不審者対応などでは、「あれ?」と思った時に声を掛け合うなど、行動に移していく。
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	感染症対策を含めた保健指導を行い、健康な生活を送れるようにする	コロナ感染症対策として、消毒や換気はもとより、休み明けの朝の受け入れでは特に慎重に保護者からの聞き取りを行ったり、保護者に向けメールで注意喚起してきた。また、食事や昼寝の場所を一定間隔に保ち固定することで、万が一陽性者が出てしまっても、濃厚接触者を一定も抑えられるよう引き続き対応していきたい。	B	B		今後、コロナに対する対応が変わってくる為、その時々に応じた対応が出来るようにしていく。
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	関係機関と連携をとりながら、職員間で情報共有し、子ども一人一人にあった支援をしていく	支援児に対する取り組み (ばんだの会) や歌学に向けて小学校・関係機関との情報共有を行ってきた。加配担当者の特別支援研修への参加などを通し、職員間で情報共有を行っている。子育ての伴走者となるべく、保護者と一緒に支援の必要な子の育ちを支えている。	A	A		個々の支援計画に基づき、全職員が共通理解し、支援出来るよう引き続き、会議や打ち合わせなどで情報共有していく。
5 組織運営	(1)組織体制の充実	全職員が自分の分掌や役割に責任を持ち、協力して運営を進める	責任を持って一人一人が各分掌に取り組んでいるが、一人で抱えてしまったり、組織として役割分担をしたり、予定を立てることが難しい分掌も見られる。分掌というやり方に慣れていないことが原因だと思うが、リーダーを中心に役割分担したり、協力したりして、今後も進めていく。	B	B		組織的に、今年度の課題を生かして行っていく。
6 研修	(1)研修体制の充実	研修テーマの日々の手だてや子どもの姿について話し合い、遊び環境を考える	研修テーマの下、こどもの良さ (いいね) の共有をはじめ、保育の中での出来事や課題・疑問 (もやもや) を日々の打ち合わせの中で伝え合い、共有している。指導案をもとに、職員皆で考え合い、遊び環境を話し合っている。	A	A	・学校の職員会議に関しては、こども園と違って放課後に揃って行っている。世代別に若手研修など、若手だけで行う研修もある。今後、50代世代が一気にいなくなっていくことを考慮し、世代交代も考えていかなければと考えている。	子どもの遊び環境をより良いものにするために、職員同士で話し合い、意見を出し合うことを大切にする。また、若い職員の思いが繋ぎ合えるような園内研修も考えていく。
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	安全点検を実施し、安心安全な環境をつくる	ヒヤリハットの記入を引き続き行い、星の打ち合わせで伝え合ったり、危険箇所の対応を保育補助の先生にすぐに頼んでいる。危険につながると思った時には、職員で伝え合い、安心安全な環境作りで改善するように努めている。	B	B		危険につながるものの状況判断が出来るよう、ヒヤリハットを通し、伝え合い、危機管理意識の向上を目指していく。
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	子どもの姿を保護者にわかり易く伝え、一緒に考えたり、成長を喜び合ったりする	乳児組は、成長とともに個人の連絡ノートの終了から、写真を使ったお便りボードで保育の様子を伝えるようにした。コロナ禍で今まで行えていなかった参加会や保護者面談、親子遠足、お招き会を実施することで、園での子どもの成長を知ってもらえる機会となった。	A	A	・保護者は、行事ごとの大きなボード (写真) を楽しみにしている。園でどのようなことをしているのかがよくわかる。	保護者に、園での様子を伝え、より理解してもらえるよう写真を使ったポートフォリオの充実を図っていく。
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	近隣の園や近隣の学校と交流活動を深める	交流館祭りや、地域の私立こども園と作品を展示し合ったり、小島こども園の園内研修、近隣の公開保育に参加したりしてコロナ禍で出来る事を行っている。	A	A	・交流館まつりでは、コロナの関係で、3年ぶりの開催となった。子ども達の作品など見てもらうことで、1000人ほど来園してもらった。地域の人も大勢来てくれた。地域の人たちもこのようなイベントを待ち望んでいるのだと思う。	今年度実施した、小学校との幼小接続交流活動でつながった事を大切に、続けていくようにする。また、近隣の公立こども園との公開保育等に、より多くの職員が交流出来るようにしていく。
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	様々な人や自然、文化に関わる機会をもち、園だけではできない体験を積み重ねる	地域の方々の協力により、子どもたちが畑での収穫体験ができている。勤労感謝の日には、地域のお世話になっている方々に手作りのカレンダーをもっていったり、焼き芋を焼いた際には、子どもたちの手で近所のお宅へ届けたりした。今後、寒枝まつりに参加予定である。	A	A		困った時に地域の方に保育を応援してもらえるような体制を作っていきたい。